

町内各保育所でおゆうぎ会

11月、3地区の保育所でおゆうぎ会が行われ、この日を楽しみにしていた保護者の方などでホールはいっぱいになりました。子ども達はこの日の為に、練習してきた歌や踊り・劇を一生懸命に披露し、訪れた保護者の皆さんを喜ばせていました。



いもごぼし(11月17日 明和保育所)



からすのパンやさん(11月18日 朝日保育所)



にじいろ(11月22日 只見保育所)



▲多くの来場者で賑わう会場

▶抽選会で、目黒支配人(湯ら里)から宿泊券を受け取る来場者



湯ら里「第24回只見新そばまつり」開催

11月12日、季の郷湯ら里で「只見新そばまつり」が行われ、町内外から約120名が新そばを味わいました。

新そばまつりでは、冷たい盛りそば、温かい田舎そば、天ぷら、漬物などが食べ放題で、来場者からは「美味しくて来て良かったです」という声が聞こえました。その他、只見産コシヒカリの新米がプレゼントされ、湯ら里宿泊券や新そばなどが当たる抽選会も行われ、心のこもったおもてなしに来場者は満足した様子でした。

第34回ふるさと演芸会

11月23日、ふるさと演芸会実行委員会主催の「第34回ふるさと演芸会」が朝日振興センターで行われ、地域の方々など約70名が来場しました。

開会式で尾形伸以実行委員長は「皆様のおかげで34回目が迎えられました。来年の節目の年を目指し今後も取り組んでまいります」と挨拶されました。

その後演芸会が始まり、日本舞踊愛好会や三つ葉会、ひよっとこクラブの皆さんによる30の演目が披露され、華麗な踊りに来場者から大きな拍手が送られていました。



▶小学生から大人まで華麗な舞を披露しました



只見町ブナセンター

ブナセンター講座

10月22日(土)

「会津地方のカエル・サンショウウオ類とその生態」

両生類・爬虫類の専門家で、2014年に新種のタダミハコネサンショウウオを発見した吉川夏彦氏(国立科学博物館)を講師に招き、ブナセンター講座を開催しました。

会津地方に生息する両生類(サンショウウオ類<有尾類>・カエル類<無尾類>)について写真と標本、録音された鳴き声(カエルのみ)を交えて詳しく説明いただきました。会津地方には、有尾類が6種、無尾類は在来種11種・外来種1種の合計12種が確認され、町内では有尾類はバンダイハコネサンショウウオを除く5種、無尾類はニホンアカガエル・トウキョウダルマガエル・ウシガエルを除く9種が確認されているとのこと。このように只見町に多くの両生類が生息しているのは、町内の自然環境の自然度が高く、多様な環境があるためと考えられるそうです。

今回の講座には、26名の方が参加され、只見町の両生類の地域的な生物多様性の高さを教えてもらうとともに、そうした生物の生息を支える豊かな自然環境を保全していく必要性を認識できました。



▲講座の様子



自然観察会

10月23日(日)

「秋のブナ林と水辺の生き物を観察しよう」



▲サンショウウオを手で解説をする吉川氏

紅葉が見頃となった布沢の「恵みの森」で観察会を開催しました。恵みの森を流れる大滝沢沿いに設置されたトレッキングコースを歩き、その周囲に生育するブナその他、トチノキやサワグルミなどの水辺林の樹木を観察しました。観察会には、町内外合わせて20人の参加者があり、前日のブナセンター講座の講師の吉川夏彦氏にも同行いただき、コース沿いで発見した両生類について解説をしていただきました。

参加者と一緒に石を裏返すとハコネサンショウウオの幼生を見つけることができました。吉川氏から、ハコネサンショウウオは流水域に生息し、水に流されないように指に爪があることや背中に黄土色の斑紋があること等の特徴の説明がありました。また、タゴガエルも見つけることもでき、タゴガエルはのどに小さな黒点が密にあること、背中の両側の筋がまっすぐなことで姿の似ているヤマアカガエルと見分けられることを教えていただきました。恵みの森を訪れたことのある参加者の方から、サンショウウオがいることは知らなかったという声もありました。今回の観察会は、紅葉だけでなく、水辺に生息する小さな生き物の生態について知ってもらう良い機会になりました。